

認知症介護実践者研修 実習関連科目ガイドライン (参考資料)

2016年7月作成版

認知症介護研究・研修仙台センター
認知症介護研究・研修東京センター
認知症介護研究・研修大府センター

目 次

はじめに	3
I. 実習関連科目の概要	3
1. 実践者研修における実習の位置づけ	3
2. 実習の流れ	3
II. 「自施設における実習の課題設定」	3
1. 科目の目的・概要及び到達目標	3
1) 科目の目的と概要	3
2) 受講生が事前に準備すること	4
2. 「自施設における実習の課題設定」の指導方法	4
1) 自施設研修のねらい（講義）	4
2) 対象者選定	4
3) 課題設定（個人ワーク）	5
4) 計画作成（個人ワーク及びグループ報告）	5
III. 「自施設実習（アセスメントとケアの実践）」	6
1. 科目の目的・概要及び到達目標	6
1) 科目の目的と概要	6
2) 受講生が事前に行うこと	6
2. 実習の開始（主な内容）	6
1) 1週目【再アセスメントの実施、実践計画の作成】	6
2) 2週目【計画に基づき実践（中間報告）】	7
3) 3週目【計画に基づき実践（計画評価）】	7
4) 4週目【実践内容の整理・評価、報告資料の作成】	7
IV. 「自施設実習評価」	
1. 科目の目的・概要及び到達目標	8
1) 科目の目的と概要	8
2) 報告方法	8
3) 実践計画と結果の評価	8
4) 留意事項	9

はじめに

本ガイドラインは、認知症介護実践者研修の実習科目について、標準シラバスに基づき実習科目を企画・運用する際の参考資料として示すものである。なお、標準シラバスに示されている、「自施設における実習の課題設定」「自施設実習（アセスメントとケアの実践）」「自施設実習評価」の目的・到達目標・概要等を共通認識された上で、企画・運用されることが望まれる。

I. 実習関連科目の概要

1. 実践者研修における実習の位置づけ

認知症介護実践者研修における「実習」は、本研修の総合的学習として、認知症の人への適切なアセスメント及びケアの実践をとおして、実践者としての役割の理解を深め、その技能を磨くことを目的とする。

実習前の計画段階では、認知症介護指導者（以下「指導者」という）との相談・助言を基に計画書の作成を行う。実習後にはその成果を報告し、受講生間及び指導者と共有するとともに、実習で学んだ内容の理解を深める。

2. 実習の流れ

科目名	場所・時間・期間
1. 自施設における実習の課題設定	研修会場 240分
2. 自施設実習（アセスメントとケアの実践）	自施設・事業所 4週間
3. 自施設実習評価	研修会場 180分

II. 「自施設における実習の課題設定」

1. 科目の目的・概要及び到達目標

1) 科目の目的と概要（シラバスより抜粋）

認知症の人が望む生活の実現に向けて適切なアセスメントを通じた課題と目標を明確にし、ケアの実践に関する計画を作成することを目的とする。

本科目では、自施設研修に向けて、対象者を定め現状の課題分析を行い、その行動計画を立てることを目指すこととし、以下の内容を到達目標とする。

到達目標（シラバスより抜粋）

- ①研修で学んだ内容を生かして、現状のケアを評価することができる。
- ②自施設の所属部署等に良い影響を及ぼす実践計画の作成ができる。
- ③認知症の人の望む生活像をアセスメントし課題と目標を明確にすることができる。

2) 受講生が事前に準備すること

(1) 事例の準備

研修受講者は研修受講前に、アセスメント・実践計画を検討したい認知症の人の対象者を2事例程度準備して受講に臨む。また、事例対象者の基本情報及び現在実践しているケア内容について、事前に確認（把握）してから研修に臨むのが望ましい。

(2) 個人情報の取り扱い

個人情報の取り扱いに留意し、現在実践しているケア内容に関わる様式等は、コピー等であっても外部へは持ち出さない。

2. 「自施設における実習の課題設定」の指導方法

1) 自施設研修のねらい（講義）

実践者研修における自施設実習の意義や全体的なねらい及び流れについて理解する。また、本日の流れ、作業時間等や、実習全体及び本科目にて作成（使用）する書式、記入方法などについて理解する。

受講生には、「アセスメントとケアの実践の基本Ⅱ（事例演習）」で、グループで実施したアセスメントならびにケア計画作成の際に用いた各自持参した事例について、個人ワークで取り組むことを説明する。

2) 対象者選定（個人ワーク）（別紙1 参照）

(1) 手順

- ・事前に準備した事例（各自持参した事例）から1事例を選定する。選定基準は、これまで学んできたことを参考に、緊急性、重要性、実施可能性などから検討する。
- ・選定した事例について、自施設実習用アセスメントシートを用いて、施設・事業所名、職名、受講者氏名、施設・事業所の理念及び必要な事例提供者基本情報についての整理を行う。氏名・性別・年齢・要介護度・認知症高齢者の日常生活自立度・認知症の原因疾患名・現病名・介護サービスの利用歴（入所期間等含む）・ご本人の生活上の課題と現状の支援目標及びケア内容について記入する（現状の支援目標及びケア内容は、現在、施設・事業所で事例対象者に対して実践している目標とケア内容を記入する）。
- ・アセスメント【課題に影響していると思われる認知機能障害】の欄では、「ご本人の生活上の課題」の欄に記入した内容が、どのような要因（中核症状）によって引き起こされているのかを分析し、その言動や行動がみられる要因を記入する。
- ・個人ワークでアセスメントを実施する。アセスメント項目（アセスメントツールの選択やアレンジ等含む）については、「アセスメントとケアの実践の基本Ⅱ（事例演習）」で学んだ内容をもとに研修実施主体ごとに選定する。
- ・個人ワークのアセスメントで課題の抽出を行った後は、グループに分かれグループ内で発表をする。受講生間で相互に行う助言と、指導者からの助言（コメント）を通じて、課題に対する要因等の理解を深め、実践計画内容の検討に繋げる。

(2) 留意事項

- ・グループ構成及び指導者の人数等に関しては、研修実施主体の状況に応じて決定することとする。
- ・倫理的な配慮として、認知症の人及びその家族の氏名、地域名、生年月日、年齢、他事業所名等個人が特定される可能性がある情報は記号化することとする。

3) 課題設定（個人ワーク）（別紙2 参照）

(1) 手順

- ・整理した課題を基に、事例対象者の「1. 目指すべき生活像（目標）」を記入する。
- ・課題の整理内容及び「目指すべき生活像」を基に、自施設・事業所でケアを実践する、「2. 実践計画内容」を作成する。
- ・この時点で予定が明確になっている場合は、「3. 実習協力者への説明内容」を実施する日付も記載する。指導者は受講者が対象としている事例に対して、倫理的配慮の確認作業が可能な事例かどうか確認することが望ましい。

(2) 留意事項

- ・各施設・事業所の理念を確認しながら指導を行う。
- ・居宅系介護サービス提供事業所の場合であっても、ケア場面について抽出しかかわり方、資源の開発、環境調整などの視点で課題を設定するよう指導する。

4) 計画作成（個人ワーク及びグループ報告）（別紙2 参照）

(1) 手順

- ・4週間の「4. 自施設実習計画」を作成する。1週毎の週目標と具体的な実践内容（例：いつ・どこで・何を・どのように）を整理して記入する。
- ・自施設実習計画書が完成した段階でグループ報告を行う。

(2) 留意事項

- ・基本的には以下の流れをもとに作成するよう指導する。
 - 1 週目：再度のアセスメントを実施、実践計画の作成
 - 2 週目：計画に基づき実践（中間報告）
 - 3 週目：計画に基づき実践（計画評価）
 - 4 週目：実践内容の整理・評価、報告資料の作成
- ・指導者は別紙1・2の様式作成の完了確認を行う。
- ・グループ構成及び指導者の確認等に関しては、研修実施主体の状況に応じて実施することとする。

Ⅲ. 「自施設実習（アセスメントとケアの実践）」

1. 科目の目的・概要及び到達目標（シラバスより抜粋）

1) 科目の目的と概要（シラバスより抜粋）

研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズを明らかにするためのアセスメントができ、かつアセスメントの内容をもとに、認知症の人の生活支援に関する目標設定、ケアの実践に関する計画やケアの実践を展開できることを目的とする。

本実習は認知症の人の生活の質の向上に寄与する計画を立て、それに基づいた詳細な記録と評価を行うこととし、以下の内容を達成目標とする。

到達目標（シラバスより抜粋）

- ①研修で学んだ内容を生かして、認知症の人や家族のニーズをアセスメントできる。
- ②認知症の人の生活の質の向上を目的にした実践計画を遂行できる。
- ③実践計画をもとに各職場の理解を得ながら、認知症の人の生活支援に関する実践が展開できる。

2) 受講生が事前に行うこと

(1) 実習の準備

- ・自施設・事業所（上司・チーム・事例対象者等）へ行動計画及び実践計画に基づき、実習の目的・展開内容及び、協力してもらう内容に関して説明し同意を得る。
- ・協力をお願いする上で、倫理的配慮に関しても説明する。実習に協力することは強制ではないこと、協力にあたって知り得た情報は適切な保護基準に基づき取り扱うこと、途中で同意取り消しは自由であること等について説明する。
- ・実習スケジュールについてチーム内での共有及び調整を行う。

(2) 留意事項

4週間の実習については、基本的には課題設定で作成した、自施設実習の4週間の行動計画に沿って展開されることが望ましい。

2. 実習の開始（主な内容）

1) 1週目【再アセスメントの実施、実践計画の作成】

(1) 実践内容

- ①実践計画内容の周知徹底と方法についての理解を求め、必要に応じて方法の再検討を行う。
- ②実践した内容に関しては記録を残す。
- ③必要に応じて、再アセスメントが必要な項目を検討し、アセスメントの実施方法（期間・実施者・評価者等）について検討する。
- ④1週間の成果を評価し、週のまとめ（別紙2）を記入し、責任者または上司からの確認を求める。

(2) 留意事項

記録方法については、各施設・事業所の状況に合わせる。

2) 2週目【計画に基づき実践（中間報告）】

(1) 中間報告の目的

中間報告は実習の現時点での進捗状況や、成果等を確認するとともに、実践計画及び行動計画内容の実効性を高めることを目的とする。中間報告は指導者に対して行い、必要に応じて成果の評価や「自施設実習評価」報告にむけた助言等を受ける。

(2) 実践内容

- ①実践計画に基づいてケアを実践する。実践した内容に関しては記録を残す。
- ②アセスメント項目の修正・追加等があった場合は、アセスメント内容を評価し実践計画内容の修正等を検討する。
- ③2週目の後半に、「自施設における実習の課題設定」で関わった指導者へ中間報告を行う。
- ④1週間の成果を評価し、週のまとめを記入し、責任者または上司からの確認を求める。

(3) 留意事項

中間報告の頻度や方法（様式含む）に関しては、研修実施主体の状況に応じて決定することとする。

3) 3週目【計画に基づき実践（計画評価）】

実践内容

- ①実践計画に基づいてケアを実践する。実践した内容に関しては記録を残す。
- ②成果評価に向けて、カンファレンスや記録等からの情報収集と情報分析を行う。
- ③1週間の成果を評価し、週のまとめを記入し、責任者または上司からの確認を求める。

4) 4週目【実践内容の整理・評価、報告資料の作成】

(1) 実践内容

- ①実践内容の整理・評価を行う。実践計画及び実践成果に対する自己評価を行う。
- ②1週間の成果を評価し、週のまとめを記入し、責任者または上司からの確認を求める。
- ③「自施設実習評価」に係わる報告資料を作成する。
- ④「自施設実習評価」での報告に向けて、必要な書類及び報告（発表）の準備を行う。

(2) 報告内容（様式記載内容）

テ　　マ：今回の実践（取り組み）内容を要約して記入する。

目　　的：今回の実践（取り組み）の経緯と目標について記入する。

方　　法：実習で実践した作業の方法について記入する。

結　　果：今回の実習の成果から分かったこと、見えたこと、読み取れたことなどについて記入する。

考　　察：結果で分かったことや、読み取れたことの要因等について記入する。

今後の課題：今回の取り組みが、認知症の人に対してどのような影響を与えたか、また、今後に繋げていきたいことについて記入する。

上司からの

コメント：責任者または上司からのコメントを求める。

(3) 留意事項

- ・評価内容は、要介護度の変化や認知機能の評価のみならず、生活の質に関する評価を行う。
- ・報告内容に関する項目及び様式内容については、研修実施主体の状況に応じて決定することとする。

IV. 「自施設実習評価」

1. 科目の目的・概要及び到達目標（シラバスより抜粋）

1) 科目の目的と概要（シラバスより抜粋）

アセスメントやケアの実践に関する計画の実施結果を整理した上で、客観的に評価、分析し今後の課題を明確にできることを目的とする。

本科目は、実践計画の実践成果を文章等でまとめ、報告後の相互評価を踏まえ、そこで得られた助言や指導をもとに今後のケアの実践に対する課題を明確にすることとし、以下の内容を到達目標とする。

到達目標（シラバスより抜粋）

- ①実施した実践計画を整理し他者に伝えることができる。
- ②認知症の人にとって有益な実践計画であったか客観的に評価し助言することができる。
- ③結果を分析し今後の課題を明確にすることができる。

2) 報告方法

- ・報告会は6名程度のグループを構成し、報告資料に添ってグループ内で報告を行う。指導者は司会進行の役割を担う。
- ・各報告終了後、グループ内で質疑応答を行う。受講生間で相互評価を行い、指導者からの助言（コメント）を受ける。

3) 実践計画と結果の評価

- ・受講生間での相互評価並びに指導者からの助言（コメント）をもとに、実践計画の修正ポイントの整理（振り返り）を行う（個人ワーク）。指導者はファシリテーターの役割を担う。
- ・実践計画の整理を踏まえて、今後の課題及び研修修了後の実践内容を明確にする（個人ワーク）。指導者はファシリテーターの役割を担う。
- ・認知症実践者研修全体の振り返りを行う。研修で学べたこと、ケアの実践に繋げたいこと、自施設実習での取り組みを継続、発展させるために必要なことなどについて整理する（個人ワーク）。指導者はファシリテーターの役割を担う。
- ・個人ワークで振り返りをした内容を基に、グループ内で報告を行う。指導者はグループ内での報告の終了後総評を行う。
- ・自施設研修での取り組み内容及び「実践計画と結果の評価」で整理した内容について、自施設での報告に向けて報告内容と日程の確認を行う。

4) 留意事項

- 報告会に参加する指導者は、事前に報告資料に目を通すことができることが望ましい。
- 相互評価内容は、要介護度の変化や認知機能の評価のみならず、生活の質に関する評価を行う。
- 報告方法及び指導者の人数等に関しては、研修実施主体の状況に応じて決定することとする。